

町田市生涯学習センターに求められる役割について

— 答 申 —

町田市生涯学習審議会



2020年3月12日

町田市教育委員会
教育長 坂本 修一 様

町田市生涯学習審議会
会長 吉田 和夫

町田市生涯学習センターに求められる役割について（答申）

町田市生涯学習審議会は、2019年6月24日付け19町教生総第119号にて、「町田市生涯学習センターに求められる役割について」の諮問を受けました。このたび、検討した結果を別紙のとおりまとめましたので、答申いたします。

目 次

はじめに	1
1 町田市の生涯学習を取り巻く環境	2
(1) 社会環境の変化	
(2) 市民の学習を取り巻く環境	
2 生涯学習センターの概要	5
(1) 生涯学習センターとは	
(2) 生涯学習センターの現状及び課題	
3 これからの生涯学習センターについて	8
(1) 誰もが学べる環境をつくる	
(2) 課題解決を支援する	
(3) 学びの裾野を広げる	
(4) 学びのネットワークづくりを促進する	
○資料	11
・ 審議経過	
・ 第4期町田市生涯学習審議会委員名簿	
・ 諮問書（写）	

はじめに

町田市生涯学習センターは、市民の学習活動を総合的に支援する教育機関として、2012年4月に開館しました。町田市の中心市街地に位置し、市民の学習活動の拠点として、開館以来、多くの町田市民に親しまれています。また、子どもから高齢者まで、幅広い世代に学習機会を提供するほか、市内外を問わず様々な学習に関する情報の収集・提供、さらには生涯学習に関する計画の策定など、町田市の生涯学習推進役として、中核的な役割を担ってきました。

しかしながら、近年の急激な社会環境の変化は、市民の学習環境にも大きな影響を与え、テーマや手法、場所や機会など、学びに関するニーズが一層多様化しつつあります。このような状況を踏まえ、生涯学習センターでは、町田市の生涯学習の全体像を改めて把握したうえで、これからの時代を見据えた新たな施設運営や事業展開のビジョンを早急に描いていくことが求められています。

本審議会では、生涯学習センターがこれまで果たしてきた役割や、実施してきた学習事業の成果や価値を共有しつつ、将来にわたって、より多くの市民に親しまれ必要とされる施設となるよう、意見交換を重ね、本答申をまとめました。

本答申の理念と趣旨を踏まえ、多くの市民の声に耳を傾け、期待に応えながら、新たな時代に相応しい市民の学習と経験を支え高める生涯学習センターとして、さらなる発展を強く願うものです。

第4期町田市生涯学習審議会 会長 吉田和夫

1. 町田市の生涯学習を取り巻く環境

生涯学習センターの役割を整理する上では、社会状況や市民の学習環境の変化をおさえる必要があります。ここでは、様々な環境変化の中で、特に生涯学習に影響のある事項について、以下のとおり整理します。

(1) 社会環境の変化

【全国】

<人口減少>

日本の人口は、2008年の約1億2800万人をピークに現在まで減少を続けており、出生率も長期的に低い水準にあります。今後ますます少子高齢化が進むことが予測されており、これに伴い、市民生活や地域社会において様々な課題が生じることが想定されます。

<人生100年時代の到来>

医療の発達などを背景に、日本人の平均寿命は延びています。そのため、健康寿命を伸ばし、豊かに生活することへの関心が高まっています。また、これまでの「学習→就業→退職」が一般的とされていたライフサイクルが見直されており、新たな人生設計が必要になると言われています。

<ICTの普及>

情報通信技術（ICT）が急速に普及し、企業活動や医療・介護、防災、サービス業などあらゆる分野での利活用が進んでいます。教育分野でも、学校でタブレットや電子黒板が導入されるなど、様々な場面で活用されています。

さらに、年代を問わずICTがより日常生活に身近なものとなっており、情報探索や買い物、学習など日常生活で幅広く活用されています。このように、ICTは生活の利便性を高めることから、今後さらに導入が拡大されていくことが見込まれます。

一方で、ICT機器を持たない人や使いこなせない人にとっては、生活上の必要なサービスを円滑に受けられないといった弊害が生じる場合があります。急速なICT化が進む中、そうした人たちへの支援がより一層必要とされています。

<国際化>

外国人労働者の受け入れ拡大などを背景に、外国人居住者数は右肩上がりに推移しており、外国人観光客も年々増加傾向にあります。外国人の受け入れ環境の整備が進められ、国全体で多文化共生の社会づくりを目指した取組が行われています。教育分野においても、多様なルーツを持つ人が増えることを念頭

に、より一層多文化共生の視点が必要とされています。

<子どもの教育環境>

核家族やひとり親家庭、共働き世帯の増加など、家族形態が多様化しています。また、貧困家庭の増加、保護者の教育力低下や孤立化などの問題が取りざたされるなど、子どもや子育てを取り巻く環境は多様化・複雑化しています。

さらに、学校教育では、学習指導要領の改訂により、新たな時代に必要な資質・能力の育成を目指した教育内容の見直しが行われるほか、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた、地域社会との連携・協働の関係づくりがこれまで以上に重視されています。

【町田市】

<人口構成>

全国的な傾向に変わらず、総人口は2020年をピークに減少に転じる見込みです。また、生産年齢人口の減少、老年人口の増加により、市税収入が減少していく一方で、社会保障関係経費が増加していくことが予測されます。さらに、総人口に占める後期高齢者（75歳以上）の割合が急増し、医療、介護給付、生活支援のニーズが急増することが予測されており、この状況に対応するための仕組みづくりを地域ぐるみで進めていくことが求められます。

<公共施設の老朽化>

公共施設の半数以上が築30年以上を経過しており、多くの施設が老朽化による更新の時期を迎えています。そのため、2016年3月に「町田市公共施設等総合管理計画」、さらに2018年6月には「町田市公共施設再編計画」が策定され、中長期的視点に立った公共施設の再編に向けた検討が行われています。

<地域づくりの支援>

協働による地域社会づくりを進める仕組みとして、市内10地区で地区協議会が設立されています。また、地域で活動している多様な主体の連携体制づくりを目的として、社会福祉協議会と市の共催で「地区別懇談会」が開催されています。それぞれの地域において、住民自らが課題について考え、話し合い、協力しながら課題解決に取り組んでいます。

さらに、地域活動を幅広くサポートしていく組織として、2019年4月に町田市地域活動サポートオフィスが設立されており、地域住民主体の地域づくりを支援しています。

地域で活動している人や各種団体の支援に加え、より多くの市民の地域づくりへの関心を高めていくことが今後求められます。

(2) 市民の学習を取り巻く環境

<市民の学習の場>

公民館を複数館設置している自治体が多い中、町田市では生涯学習センターの一部として公民館が位置づけられており、中央に一館のみの設置となっています。一方で、市民の学習の場として、市民センターをはじめとする集会施設が地域にあるほか、子どもセンター、市民フォーラムなどの施設があります。

<学習支援に関する取組>

教育委員会だけでなく、市役所内の様々な部署が、福祉、まちづくり、子育て支援、環境、防災などの施策の中で学習支援につながる取組を展開しています。また、行政以外でも、企業・NPO・大学や公益団体などの主体が、それぞれの特色や専門性などを活かした取組を展開しています。

2. 生涯学習センターの概要

これからの生涯学習センターを考えるにあたっては、設立経過やその時に目指した姿を再確認する必要があります。設立から8年間取り組んできたことを現状及び課題として整理し、以下のとおりまとめました。

(1) 生涯学習センターとは

生涯学習は日々の生活の土台となるものです。人は学びを通じて、余暇を充実させ、他者とのつながりを持ち、また、日常生活の中で生じる課題を解決しながら、生活の幅を広げていくことができます。さらに、急速な社会環境の変化に対応していくためには、新たな知識を習得していくことが必要です。加えて、市民一人ひとりが地域社会の一員として、住んでいるまちに愛着や関心を持ち、様々な課題についてともに考え、解決策を導いていく地域社会を築いていくうえで、生涯学習は大きな役割を果たすことが期待されます。

生涯学習センターは、このような生涯学習の意義や役割などを踏まえ、市民の生涯にわたる学習活動を支援する教育機関として設置されました。市の生涯学習施策の推進役として、「だれもが生涯を通じ、あらゆる場所で学び、支え合うことができる社会」を目指し、様々なテーマの学習事業を展開するほか、生涯学習に関する情報の収集・発信、学習相談への対応、施設の貸出などを行ってきました。

<設立経過>

1958年、町田市誕生とともに生涯学習センターの前身となる公民館が設立されました。公民館では、「学習のきっかけづくり」「グループ活動の支援」「学習の場の提供」に主眼を置きながら、その時々々の行政課題を反映した学習事業を展開していました。

1990年代に入り、全国的に生涯学習行政への転換が進む中、地域社会づくりの基盤となる担い手の育成に重点をおいた「まちだ市民大学HATS」が1993年に開講されました。このまちだ市民大学HATSは、「あなたを励まし、地域を育てる」をコンセプトに各種講座を開催し、公民館とともに町田市における生涯学習分野の事業実施主体として中心的な位置を占めました。

その後、市民にとってより利用しやすい生涯学習環境を整備するため、総合的に生涯学習を推進する「センター機能」についての検討を開始しました。2010年に出された社会教育委員の「町田市における生涯学習センターの機能、学習機会の提供のあり方について一答申」をもとに、生涯学習支援に必要な

機能を「全体計画立案機能」「関係機関との総合調整機能」「情報集約・発信機能」「学習相談機能」の4点に整理しました。併せて、公民館とまちだ市民大学HATSの独自性を残しつつ、センター機能を担う組織が引き継ぐ方向性を示しました。

これらの経過を経て、2012年に生涯学習センターが設置され、現在に至っています。

(2) 生涯学習センターの現状及び課題

【学習機能】

(現状)

生涯学習センターでは、市民の生涯にわたる学習を総合的に支援することを目的とし、子どもから高齢者まで、あらゆる世代を対象に、講座や講演会、イベント等をはじめとする様々な事業を展開しています。60歳以上を対象とした「ことぶき大学」、主に知的障がいのある方を対象とした「障がい者青年学級」、子育て中の保護者を対象とした「家庭教育支援事業」、市民グループの企画・提案をもとに講座を作っていく市民提案型事業「講座づくり★まちチャレ」、地域づくりの担い手となる市民の養成に主眼を置いた「市民大学事業」などを実施しています。

また、市民一人ひとりが多様化する学習機会の中から自分に合ったものを選択できるよう、様々な団体が主催する学習事業や、市内外の学習施設、サークルなどの団体等の情報を収集・発信するほか、学習成果を活かす機会・仕組みづくりとして「生涯学習ボランティアバンク制度」を実施しています。

(課題)

あらゆる世代に向けた学習事業を展開していますが、その多くは生涯学習センターを拠点に実施しています。そのため、施設に足を運ぶことが出来ない人は参加することができません。また、生涯学習センターの認知度が低い現状から、そもそも学習事業を実施していること自体を多くの人が知りません。これらのことから、学びを必要としている人が学習情報や学習機会を十分に得られていないことが考えられます。あらゆる市民が、自分の必要とする学習機会につながっていけるよう、多様な事業展開を検討していく必要があります。

また、様々な部署や機関で生涯学習に関する事業が展開されている状況や、地域において各種団体が数多く活動していることを踏まえたうえで、生涯学習センターの担うべき役割や事業内容について整理する必要があります。

【集会機能】

(現状)

市民一人ひとりが円滑にかつ充実した学習活動を行うことができるよう、生涯学習センターでは学習室7室、ホールのほか、調理実習室や美術工芸室、プレイルーム、音楽室、和室といった様々な施設の貸出を行っています。対象者は、主に5名以上の団体で、事前予約制となっています。サークルや市民団体などのグループ学習の場として活用されており、貸出施設の利用者数は年間約16～17万人、利用率は70%後半と市の他の施設と比べても利用者が多いのが特徴です。

また、誰でも自由に利用できる「団体活動コーナー」も設置しています。サークル等の打合せのほか、自習をする学生やゲームに興じる若者など、貸出施設に比べて若者の利用が多くなっています。

(課題)

生涯学習センターは、居住地や年齢、ルーツを問わず多くの市民に利用されています。さらに、その利用目的はグループ学習や自習スペース、憩いの場など多岐にわたることから、施設に対して利用者の求める環境は多種多様です。そのため、利用者のニーズはもとより、現在施設を利用していない人のニーズも踏まえながら、よりよい学習環境を整備していく必要があります。

また、唯一の生涯学習センターとして、利用者をどのように新たな学びにつないでいくかを思い描いた上で、それを踏まえた最適な施設の活用方法について整理する必要があります。

3. これからの生涯学習センターについて

前述のとおり、生涯学習センターは市の生涯学習施策の推進役として、生涯学習支援に必要なサービスや学習事業を展開してきました。その一方で、社会環境や市民を取り巻く学習環境は目まぐるしく変化しており、市民ニーズの多様化によって新たな課題も生まれています。そうした状況を踏まえ、町田市生涯学習センターで今後担うべき役割や事業内容について検討を重ね、以下のとおり整理しました。

(1) 誰もが学べる環境をつくる

市民一人ひとりが自分に合った学習活動を行えるよう環境を整備することが、生涯学習行政が果たすべき最も重要な役割です。そのため、様々な事情を抱え、学ぶことに対して支援が必要な人や、仕事や家庭によって学ぶ時間が限られている現役世代、学習施設に足を運ぶことが出来ない人、言語の壁がある外国人など、学習機会を十分に得られない人たちをしっかりと支援していくことが必要です。そうした人たちにも個々の事情に配慮した学習機会を確実に提供していくことはもちろん、市内外の各所で展開されている一つひとつの学習機会の中から自分に合ったものにスムーズにつながっていけるよう配慮する必要があります。例えば、学習コンテンツや学習情報のデジタル配信を行うなど、場所や時間の制約なく多様な学習資源にふれることができる環境を整備していくことが必要です。

(2) 課題解決を支援する

急激な社会状況の変化の中、市民生活や地域社会が抱える課題は、複雑化・多様化してきています。それらの課題解決の過程では、市民一人ひとりの学びや地域住民同士の学び合いが必要となります。そのため、市民生活や地域社会の様々な課題を、教育や学習といった視点で捉え直し、その解決に向けた学習を支援していくことが必要です。

市民生活や地域社会の課題を取り上げた学習講座等を行うにあたっては、生涯学習センターを会場として実施するだけでは不十分です。地域に横断的な課題をテーマとした講座は生涯学習センターで開催しながら、地域固有の課題についての講座を地域で展開していくことが重要です。より身近な場所で、身近なテーマについて学ぶ機会を提供していくことで、多くの市民に地域の課題に

対する認識を高めてもらうことが必要です。

また、地域住民が地域の課題解決に取り組むためには、推進役となるリーダーやコーディネーターが必要であり、その育成に取り組むことも重要です。そのため、地区協議会をはじめとする地域で活動する団体の方等を対象に、学んだ知識を地域に持ち帰ってもらうことを目的とした講座を実施するなど、地域の担い手のスキルアップにつながる学習を充実していく必要があります。

さらに、生涯学習センターで行う学習講座と地域での学びを結びつけていくことが肝要です。生涯学習センターで学んだことが地域で活かされていくとともに、地域での様々な活動や学びの好事例等を取り上げ、生涯学習センターで実施する講座で紹介していくなど、双方の学びが循環する仕組みを構築していくことが重要です。

(3) 学びの裾野を広げる

生涯学習センターを日常的に利用する人がいる一方で、2017年度に実施した「町田市生涯学習に関する市民意識調査」によると、施設の認知度は約40%と低く、生涯学習そのものに関心のない人も多いことが考えられます。しかし、生涯学習は、日常生活の充実や心の豊かさにつながることを期待できるほか、生活上の課題解決や地域づくりなどの場面においても不可欠なものです。そこで、より多くの人々の生涯学習への関心を高め、学ぶことの楽しさを伝えていくことで、市民一人ひとりの継続的な学習につなげていくことが重要です。

学習の拠点である生涯学習センターでは、ランドマーク的な事業を実施するなど、より多くの人々が生涯学習に関心を持つきっかけを作ることが必要です。さらに、地域や年齢、ルーツを問わず多様な人が集まる拠点としての特色を活かすことで、刺激を受けて新たな学び合いが生まれるよう工夫をすることも大切です。

加えて、市民にとってより身近な場所で学びのきっかけを提供していくことが必要です。そのためには、地域の公共施設や中規模集会施設などを活用するとともに、各種団体などと連携しながら、学びの場を地域に広げていくことが必要です。

また、学校や各校のボランティアコーディネーターと連携しながら、子どもの学びの場や機会を充実させていくことも必要です。生涯学習ボランティアバンクなど、様々な知識や技能をもつ人材や団体の情報を活かし、学校教育の現場等の求めに応じ紹介していくほか、児童・生徒が学校教育で得た興味・関心をもとに、学びをさらに深めることができる場と機会を提供することも大切です。

(4) 学びのネットワークづくりを促進する

市民の学習に関するニーズは多様化しており、それらの全てに生涯学習センターで応えていくことはできません。一方、学習に関する取組は、生涯学習行政だけでなく様々な主体において展開されています。そのことを踏まえ、市民により多様な学習機会を提供するためには、生涯学習センターが他の公共施設や関係機関、各種団体と連携し、様々な主体や取組をつなぐ役割を担うことで、市民への学習支援をより効果的に展開していくことが必要です。

そのためには、まず関係機関や各種団体、他部署がどのような学習支援の取組を行っているのかを情報収集する必要があります。それらの学習情報を体系化し、学習全体の「見取り図」を作り、それを関係機関と共有しながら、学びのネットワークを広げるとともに、それらを市民に提供することで、必要な学びの場や機会につなぐことが大切です。

また、学習成果を地域につなげることも重要です。生涯学習センターで学んだことを単なる知識として埋もれさせるのではなく、知識を活かすことができる場や機会へとつなぐことで、学びを地域社会へ還元していくことが大切です。そのためには、各種団体や庁内の関係部署と連携・協働し、学んだ知識や経験を活かす機会を作り、学んだ人が地域活動へスムーズに参加できるよう仕組みを整える必要があります。

資 料

審議経過

回	日時	内容
8	2019年6月24日	・諮問 ・生涯学習センターの概要について
9	2019年10月9日	・生涯学習センターの学習機能について
10	2019年10月23日	・生涯学習センターの集会機能について
11	2019年11月13日	・答申の骨子案について
12	2020年1月23日	・答申（案）の確認について
13	2020年2月14日	・答申（最終案）の確認について

第4期町田市生涯学習審議会 委員名簿（2019年6月24日～2020年3月31日）

氏 名	区 分
(会長) 吉 田 和 夫	社会教育委員
(副会長) 瓜 生 ふ み 子	社会教育委員
影 山 陽 子	社会教育委員
池 野 系	社会教育委員
関 根 美 咲	社会教育委員
大 石 正 子	社会教育委員
渡 辺 恒 彦	社会教育委員
奥 平 雄 二	社会教育委員
柳 沼 恵 一	生涯学習又は社会教育に関する関係機関の代表
山 口 洋	生涯学習又は社会教育に関する関係機関の代表 (2019年7月31日まで)
清 水 陽 子	生涯学習又は社会教育に関する関係機関の代表 (2019年10月1日から)
深 沢 眞 二	生涯学習又は社会教育に関する関係機関の代表
井 藤 親 子	生涯学習又は社会教育に関する関係機関の代表
佐 々 木 極	公募
谷 田 部 ま ゆ み	公募



19町教生総第119号
2019年6月24日

町田市生涯学習審議会
会長 吉田 和夫 様

町田市教育委員会
教育長 坂本 修



町田市生涯学習センターに求められる役割について（諮問）

町田市では、市民の生涯にわたる学習活動を総合的に支援する教育機関として、生涯学習センターを2012年4月に設置しました。これまで生涯学習センターでは、各種講座・イベント等の開催、町田市生涯学習推進計画の策定、生涯学習に関する情報の収集及び提供等、市民の学習を支援するための様々な取組を行ってきました。

その一方で、設置から7年が経過し、社会状況や町田市を取り巻く環境は目まぐるしく変化を続け、市民の学習環境も大きく変化しています。それらの変化に対応していけるよう、学習支援の取組についても、将来を見据えながら、絶えず見直していくことが求められます。

つきましては、町田市生涯学習審議会条例第2条第1号の規定に基づき、下記のとおり貴審議会に諮問します。

記

諮問事項 町田市生涯学習センターに求められる役割について

町田市生涯学習センターに求められる役割について
—答申—

2020年3月発行

発行 町田市教育委員会生涯学習部生涯学習総務課
〒194-8520 町田市森野 2-2-22
電話 042-724-2181
刊行物番号 19-111
印刷 庁内印刷

